

小学校

平成 9 年 度

教育研究員研究報告書

社 会

東京都教育委員会

平成9年度

教育研究員名簿

分科会	地区	学校名	氏名	分科会	地区	学校名	氏名
第三学年	葛飾 葛飾 江戸川 江戸川 三鷹 府中	上千葉小	室谷 聡	第六学年	江東 目黒 世田谷 杉並 豊島 北 荒川 足立 足立 昭島 狛江 東久留米	第七砂町小	伊藤 康次
		二上小	水沼 博子			月光原小	山本 敏寛
第四学年	港 大田 板橋 八王子 多摩 羽村 あきる野	臨海小	○原 弘義	○土屋 勉	王子第五小	三軒茶屋小	矢口 泰
		一之江小	出口 明			桃井第二小	芝田 智昭
第五学年	新宿 文京 台東 品川 世田谷 中野 練馬 練馬 日野 東久留米 多摩	第三小	杉山真理子	○加藤 雅弘	要町小	要町小	堤 緑
		府中第三小	小峰 直子			王子第五小	高野 毅
第五学年	新宿 文京 台東 品川 世田谷 中野 練馬 練馬 日野 東久留米 多摩	青山小	金指 宜和	○西沢 圭一	第二日暮里小	第二日暮里小	加藤 浩子
		入新井第一小	○土屋 勉			千寿桜小	菱田 陽子
第五学年	新宿 文京 台東 品川 世田谷 中野 練馬 練馬 日野 東久留米 多摩	桜川小	山本亜津子	○西沢 圭一	花畑西小	花畑西小	○及川 潔
		下柚木小	森嶋 正行			狛江第二小	栗山 麻里
第五学年	新宿 文京 台東 品川 世田谷 中野 練馬 練馬 日野 東久留米 多摩	北落合小	小泉 誠	○西沢 圭一	狛江第五小	狛江第五小	佐藤 孔美
		北落合見小	富樫 聡子			東久留米第九小	実川 泉
第五学年	新宿 文京 台東 品川 世田谷 中野 練馬 練馬 日野 東久留米 多摩	富士見小	小林 洋子	○西沢 圭一	東久留米第九小	東久留米第九小	実川 泉
		増戸小	小林 洋子			東久留米第九小	実川 泉

◎全体世話人

○分科会世話人

担当 教育庁指導部初等教育指導課指導主事 伊東 富士雄

目 次

I 小学校研究員共通主題

「児童一人一人のよさや可能性を生かし、生きる力をはぐくむ指導の工夫」

II 社会共通研究主題

学び合う中で自分なりの考えをもてる社会科学習

III 研究内容

- | | | | |
|---|---------|--|----|
| 1 | 第3学年分科会 | 児童が進んで地域の人々とかかわり合い
学ぶための教材化の工夫
——「わたしたちの暮らしと商店がい」「暮らしのうつりかわり」
の単元を通して—— | 2 |
| 2 | 第4学年分科会 | 教材を身近にひきよせる学習活動の工夫 | 7 |
| 3 | 第5学年分科会 | 産業学習の各単元の学習活動の工夫を生かして
自分なりの考えをもつ学習活動の工夫 | 13 |
| 4 | 第6学年分科会 | 多様な学び合いの中で、一人一人が問い続ける
学習過程の工夫 | 19 |

< 概要 >

- 社会科学習において、児童一人一人のよさを生かし、生きる力をはぐくむ指導を実現していくためには、問題解決的な学習活動や体験的な学習活動を推進していくことが重要である。そのためには、多様な角度から教材を吟味することや相互啓発を促す教師の支援が大切である。
- 人は人とかかわりを通して今日の社会を築いてきた。しかし、今日の社会は、人と人とかかわりを機械やものとかかわりに置きかえるようになった。経済的な効率化や合理化のためとはいえ、その結果、人間関係の希薄化をもたらした。子どもたちはその影響を受け、他の人と上手に人間関係を築くことができないものが多くなっている。このような状況のもとでは、学習の中で学び合うことを通して、社会認識を深めるとともに人間関係を深めるような場を意図的に設定することが大切である。
本研究においては、学び合いの場を意図的に設定し、自分なりの考えをもつことのできる授業づくりを目指してきた。
- 研究の推進に当たっては、社会共通研究主題を設定し、それを受けて4つの分科会がそれぞれ研究主題と仮説を立て、先行研究に学びながらも主に授業実践を通して仮説検証を行い、主題に迫るように努めた。

児童が進んで地域の人々とかかわり合い学ぶための教材化の工夫

－「わたしたちの暮らしと商店がい」・「暮らしのうつりかわり」の単元を通して－

I 研究主題設定の理由

第3学年の社会科学習は、地域学習が中心である。そこで、児童が地域をより身近に感じ興味・関心をもって進んで学習していくことができるように、以下の三点に重点を置いて本主題を設定し研究を進めた。

1 児童が主体的に学習を展開する

常に学習の主体を児童に置き、教師は児童の活動を支援する立場に立つことが大切である。そのためには、児童の学習内容や学習活動に寄り添う《教材》を用意したり、児童一人一人が課題をもって調べ、もしくは作ったものを《教材》として生かしたりしていくことが、児童の自ら学ぶ態度づくりに有効ではないかと考えた。

2 地域の人々とのかかわり合いを大切にしていく

児童の学習実態から、人気のあるインタビュー活動や見学を中心に授業を構成してみた。児童が地域の人々へのインタビューや、見学・行事への参加などを通して《人とやりとり》をする。これらの活動により、地域の人々とのつながりが生まれてくる。今まで物理的・距離的な身近さだけを感じていた児童が、地域の人々との《交流》を通して、人々の思いや願いに気付き、心理的な身近さも感じるようになる。そのことによって、児童は学びを広げ、深めることができる。

3 児童の学びを支えるための教材の条件

(1) 意欲を引き出す教材を作る

触れてみたい・知りたい・聞きたい・調べたい・伝えたいという児童の疑問や活動に沿った教材は、意欲を引き出すものとなり、児童が学習を主体的に進める上で重要なポイントである。

(2) 学習活動を教材としてとらえる

体験的な活動や発表会など様々な学習活動やその成果を教材にすることは、児童相互の学びの場を広げることになる。

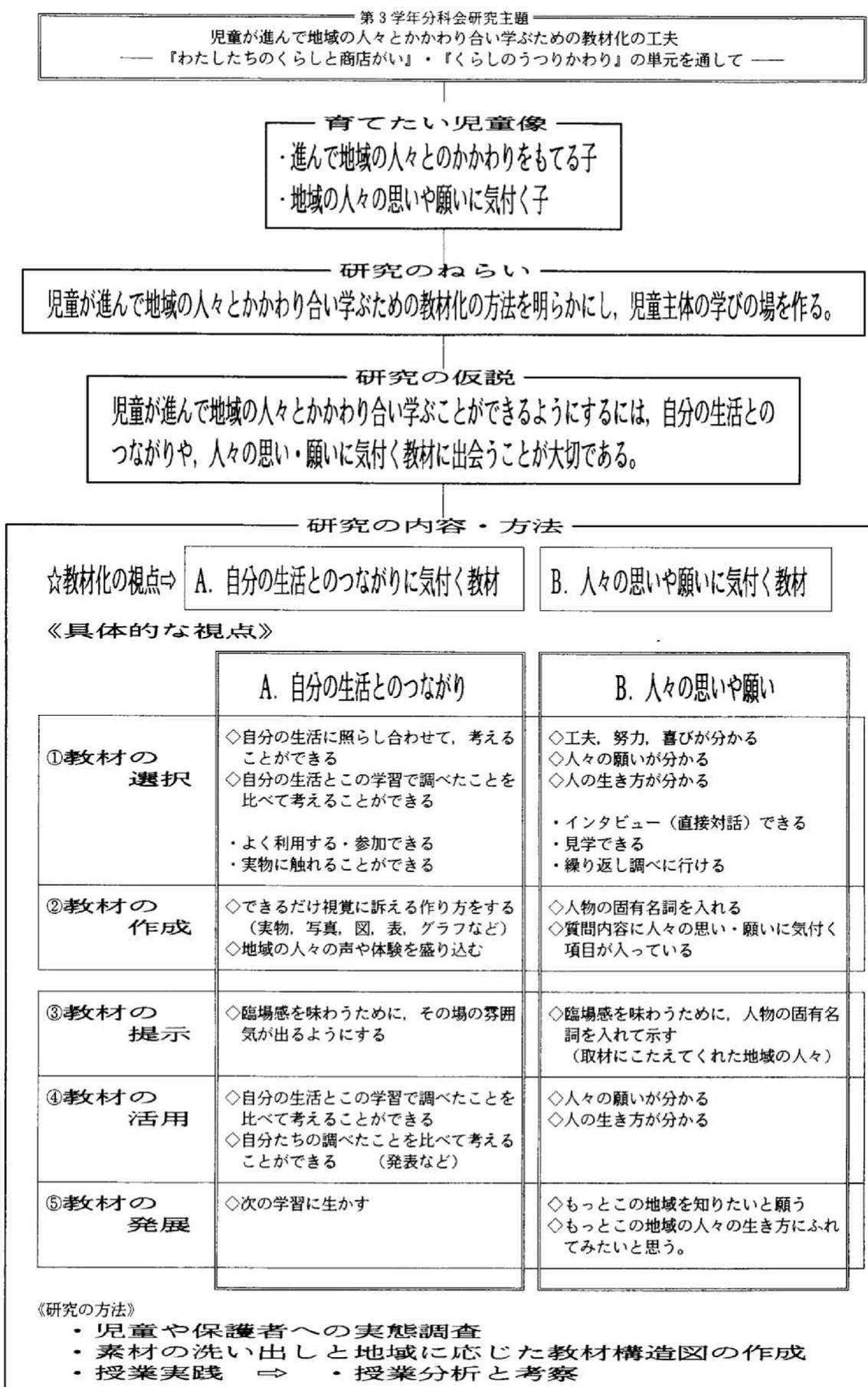
(3) 児童の考え方や作品を教材として活用する

他の児童が気付いていない考えや発表内容なども教材としてとらえる。それを全体に広めることで新たな疑問が湧き、次への活動につながるとともに、学び合いの基盤を作ることができる。

(4) 地域の人々が登場する

地域の人々を教材として取り込むことで、地域をより身近に感じて学習を進めることができる。さらに、学習内容を自分たちや地域の人々と共有することができる。

II 研究構想図



IV 研究の実践例

『わたしたちの暮らしと商店がい』

《本単元教材化の視点》

A. 自分の生活とつながりがあるか

- ・商店と自分（たち）の生活とのつながり
- ・商店の利用の仕方
(質の良さ・値段など)

B. 人々の思いや願いに気付くことができるか

- ・商圈を広げるための工夫
- ・お客さんに満足感をもたせる工夫、努力
- ・納得のいく買い物をしたいという願い

研究の実践例						
児童や保護者の買い物実態調査や買い物調べのグラフ化によりどこを中心に学習するか考える						
実践①	実践②	実践③	実践④	実践⑤	実践⑥	
商店街 (にぎわっている)	商店街・個人商店・スーパー (使い分けている)	スーパー・商店 (利用率が低い)	商店街 (学区・駅前まで調査しやすい)	スーパーと専門店ビル (利用率高い)	スーパーマーケット (ここしかない)	
商店街見学①			商店街見学② VTR		スーパー見学③(近所小売)	
単元を通じた課題づくり						
<ul style="list-style-type: none"> ・商店街の絵地図作り ・商店街見学の視点を話し合う ・商店街の見学(グループ) ・調査発表の準備 ・ポスターセッションで見学したことを発表する ・商店街全体の工夫(商店街会長) ・商店街の見学②(他地域とのかわり) 	<ul style="list-style-type: none"> ・商店街見学の視点を話し合う(学区・駅前) ・調査発表の準備 ・見学したことを録音する方法で発表する ・スーパー見学(グループで隣接、駅前) ・商店街、会の工夫 ・他地域とのかわり 	<ul style="list-style-type: none"> ・人気スーパーの見学 ・他の商店について調べる ・計画を立てる ・もグループに分かれてもつ商店街を見学 ・調査発表の準備 ・見学したことを録音する方法で発表する ・自分たちで調査できなかった部分の補足(よく行くお店の人) ・他地域とのかわり 	<ul style="list-style-type: none"> ・商店街の絵地図作り ・夕方の様子(VTR)を見て、商店街見学の視点を話し合う ・商店街の見学(グループ) ・調査発表の準備 ・見学したことを録音する方法で発表する ・商店街全体の工夫(商店街会長) ・商店街の見学②(他地域とのかわり) 	<ul style="list-style-type: none"> ・もグループ4店舗に分かれて、問題解決方法を考える(調査方法の検討) ・1店舗に分かれて見学 ・調査発表の準備 ・見学したことを録音する方法で発表する ・自分たちで調査できなかった部分の補足(スーパーの店長) ・他地域とのかわり 	<ul style="list-style-type: none"> ・分かったことを新たな疑問を出し合う ・スーパー見学の視点を疑問をもとに話し合う ・スーパー見学③(少し遠い大型) ・買い物新聞作り ・新聞を基に調査発表の準備 ・見学したことを録音する方法で発表する ・にぎわいをVTRなどで確認する ・他地域とのかわり 	
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・学習したことを買い物新聞でまとめる ・地域の産業見学 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習したことを自分なりの方法でまとめる 	<ul style="list-style-type: none"> ・お札の手紙を書き届ける(地域のひととの交流) 	<ul style="list-style-type: none"> ・お札の手紙を書き届ける(地域のひととの交流) 	<ul style="list-style-type: none"> ・計画をたて買物をする ・買物で気をつけたことなどの発表 ・お札の手紙 	<ul style="list-style-type: none"> ・買物で気をつけたいことなどの発表 ・お札の手紙

資料は児童が作成していけるようにする。そのための教材化における視点は研究構想図に前述している。

実践として6例挙げたが、これは研究員それぞれの地域で行ったものである。教材は異なっても、研究構想図の内容欄に示した視点を教材の作成・提示・活用段階で丁寧に押さえていくことで、育てたい児童像に近づくことができた。

素材一覧表を基にそれぞれの地域で教材構造図を作成した。児童の考えや作品が単元の目標に迫れるものであるかどうかを分析する上で有効である。

『くらしのうつりかわり』単元でも同様の方法で実践を進めている。

V 授業分析

「わたしたちのくらしと商店がい —— みのもり商店がいの人気のひみつをさぐるう」

1 学習過程と児童の学習の実際

学習過程	時	主な学習活動・学習内容	★支援 ◎評価	観察対象児 (教材 ・ 活動 ★支援)	
				A 児	B 児
つかむ	1	一週間の「買い物調べ」から、お客さんはどの商店を多く利用するかを考え、そのわけを予想する。	★買い物調べについて事前に協力を呼びかけておく。 ◎結果の図表からわけを考えることができたか。	自分で一人で調べたり、まとめたりすることがあまり得意でない。	社会科に対して興味をもち、調べることや発表することが大体できる。
	2・3	みのもり商店がいの見学を全員で行う。	★見学の視点を明らかにする。	・みのもり商店がいは楽しいところだぞという感想をもった。	・大売出しのチラシや店の飾りに気付いていた。
調べ	4	みのもり商店がいの見学を基に、絵地図を作る。	◎調べたことを基に絵地図を作ったか。	・友達と相談しながら作っていた。	・積極的に絵地図作りをした。
	5	みのもり商店がいを多くの人々が利用しているわけを予想し発表する。	★夕方にみのもり商店がいの様子を観察するよう呼びかける。	・「安いから」という理由を考えついた。	・値段や品物の質のよさにも着目した発言をした。
る	6	みのもり商店がいの人気のひみつを探るために、一つ一つの商店での見学の視点を話し合う。	◎どんな事を聞けばよいか考えることができたか。	★人気のひみつを探る視点を確認し具体的に考えるよう助言。	★人気のひみつを探る視点について自分なりに発言できるよう助言し他の児童の思考の助けになるようにした。
	7・8	グループごとにみのもり商店がいの見学する。	★目的をハッキリさせてインタビューできるよう助言する。	・楽しそうに見学していた。	・積極的にインタビューしていた。
る	9・10・11・12	グループごとに取材してきたことを、それぞれの表現方法でまとめる。	★いろいろな表現方法があることを例示する。	・文房具屋を調べ、グループ内で話し合い、自分の分担をまとめた。	・八百屋を調べ、人気のひみつのわけを、絵や文で上手にまとめた。ポイントを絞ったまとめ方ができ、わかりやすい作品になった。
	13・14	発表することを通して学び合い、みのもり商店がいの人気のひみつを考える。	★発表の仕方に関して助言する。 ◎意欲的に考えることができたか。	・班の友達に聞いて自分なりの発表の仕方を工夫しようと努力していた。 ・「社会はあまり好きではないけど、こういう社会は好き」という感想をもった。	・八百屋さんになりきって表現力豊かに発表して、人気のひみつに気づき発言した。
る	15	みのもり商店がいが全体で協力して取り組んでいることを、予想し発表する。	★1回目のみのもり商店がいの見学の写真を提示する。	★友達の見学をよく聞いて考えるよう助言。	★進んで発言するよう促した。
	16	みのもり商店がいの会長さんの話を聞き、商店会の工夫に気付く。	◎意欲的に聞くことができたか。	・「みのもり」の名前について質問した。	・みのもり会で行うイベントについて質問した。
る	17	八百屋の品物の産地について調べたことを話し合う。	★他の地域とのつながりに気付くようにする。	・産地調べから果物を外国からも輸入していることに気付いた。	・産地調べから自分たちの産地は他の地域とつながっていることを理解した。
	18	お客さんは、どこからみのもり商店がいに買い物に来ているのかを調べる。	★広い範囲からきていることに気付くようにする。	・小さな子も買いに来ていることに気付いた。	・お客さんが自転車できていることに気付いた。
まとめ	19・20	みのもり商店がいについて学習したことを、自分なりの方法で新聞にまとめる。	◎自分なりにまとめることができたか。	★調べた内容をまとめるどどのようになるか一緒に考えた。	・他の児童に分かりやすい新聞を作った。

2 考察

○身近な商店がいを取り上げたことで、進んで地域の人々とのかかわりがもてた。

○繰り返し見学やインタビューすることで、地域の人々の思いや願いに気付いた。

IV 研究の成果と今後の課題

1 研究の成果

- 児童が課題をもって調べたり作ったりしたものを、教材として生かすことができた。具体例として『わたしたちの暮らしと商店がい』の単元では、インタビューの中でお店の人の「仕入れ先」という言葉が出てきた。そこに注目したグループがさらに、お店の人に取材を行い、その中で『産地』について新しく知ることができた。そのグループの発表を聞き合ううちに、別のグループが『産地』に着目し、さらに知りたい調べたいという意欲がクラス全体にわいてきた。
- 自分の生活とつながりのある場所や事柄を扱った教材であったので、進んで地域の人々とかかわりあえるようになった。『商店がい』単元の終わりに、今までのお礼も兼ねてもう一度見学に行くと、お店の人はとても感激し、児童の手紙や作品までも店頭において子どもたちの学習を宣伝したいという反応もあった。児童は地域の人々とかかわり合いを深め、学ぶことの楽しさを体得した。

2 今後の課題

- 教材化の視点として掲げた2点（A自分の生活とのつながりに気付く B人々の思いや願いに気付く）が適切かどうか。特にBについてはすぐには見えてこないものだけに、支援の在り方についても検討する。
- 児童の発言や作品等を教材として有効に活用できるようにするために、教師の『感性』や『教材の分析力』がとても大切である。

研究主題

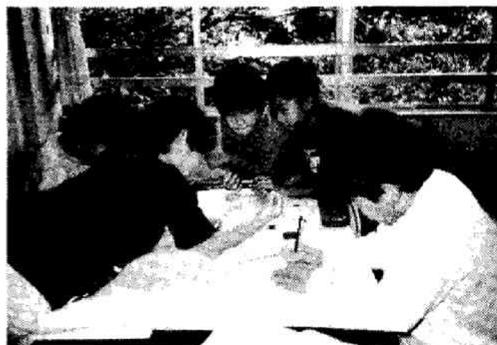
<第4学年分科会>

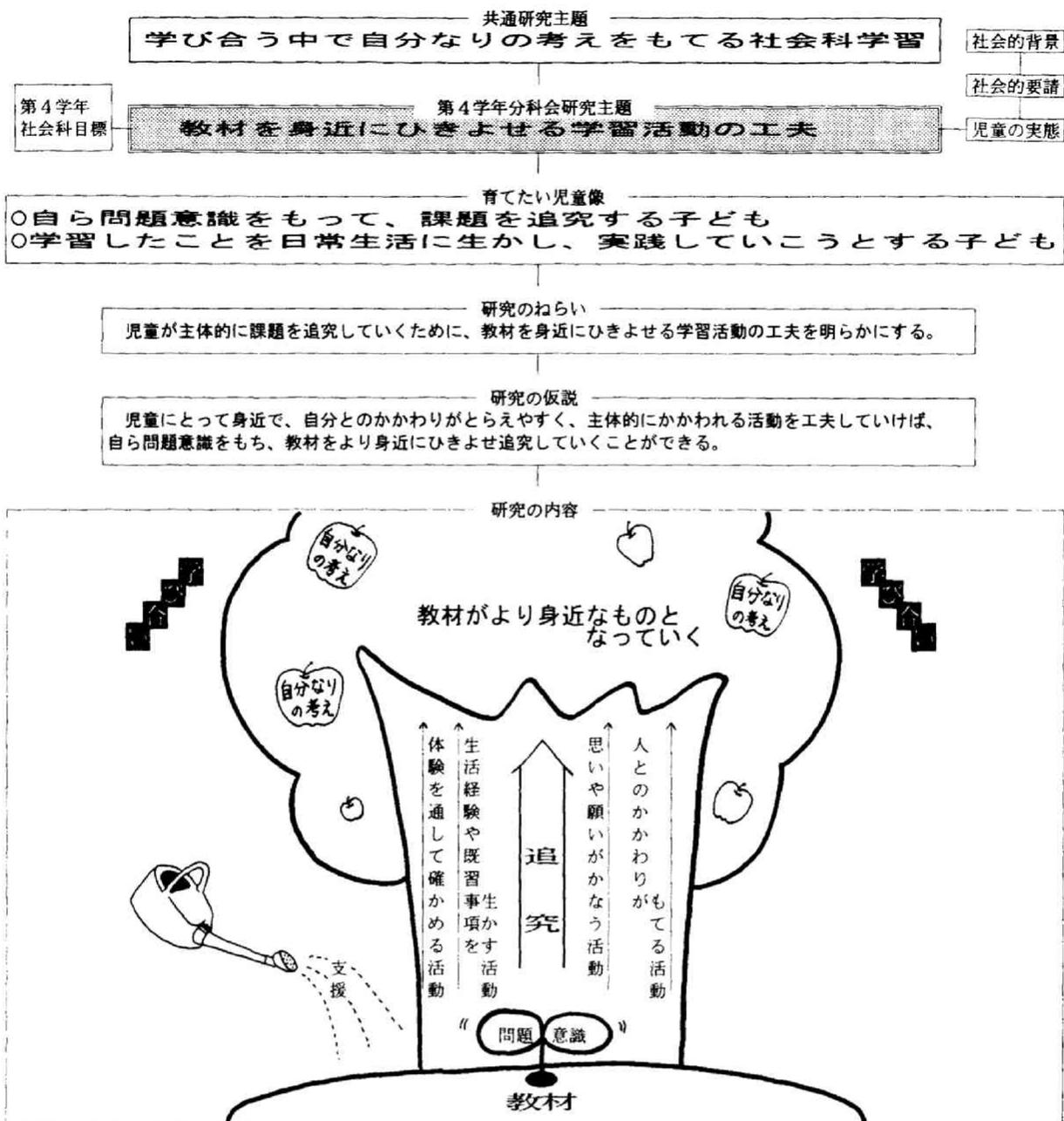
教材を身近にひきよせる学習活動の工夫

I 研究主題設定の理由

第4学年の児童は、実に活動的であり、積極的に調べ学習を行う。しかし、児童により、社会的事象に対する興味・関心のもち方に差が大きく、知識が断片的で他と関連づけて考えることが少ない。また、自己中心的で、依存的であり、互いに高まろうとする意識に欠ける面が見られる。そこで、一人一人の児童が、学習活動を通して相互にかかわり合いながら、互いのよさを認め合い、自分なりのものの見方、考え方を深めていくことが大切であると考えた。また、一人一人の児童には、それぞれの生活体験があり、その生活体験にもとづいた価値判断から導かれる考えをもつことが大切であると考えた。

第4学年分科会では、一人一人の児童が自分なりに考え、学び合いを通して、調べ学習に取り組む意欲と態度の育成が大切であると考えた。つまり、児童が自ら社会的事象に興味・関心をもち、問題意識をもって、調べ学習をするため、教材を身近にひきよせる活動が大切であると考えた。そこで、教材をより身近に感じ、自ら問題意識をもち、主体的に追究していく児童の育成を目指し、上記の研究主題を設定した。





II 研究の内容と方法

本分科会では、児童が教材を身近にひきよせる活動を取り入れれば、児童が自ら問題意識をもって、追究していくことができるだろうと考えた。児童は、自分とのかかわりで物事をとらえる。つまり、自分とのかかわりがとらえやすく生活経験や既習事項から想像できるときに身近に感じることができる。また、自分とのかかわりが薄くても自分の生活経験や既習事項と照らし合わせて、驚きや意外性を感じるときにも教材を身近に感じることができる。そこから自分なりの問題意識が生まれ、主体的に教材にかかわるようになり、心理的により身近なものとしていき、自分の生活経験や既習事項の中にとり入れていく。この活動が、教材をより身近にひきよせる活動である。

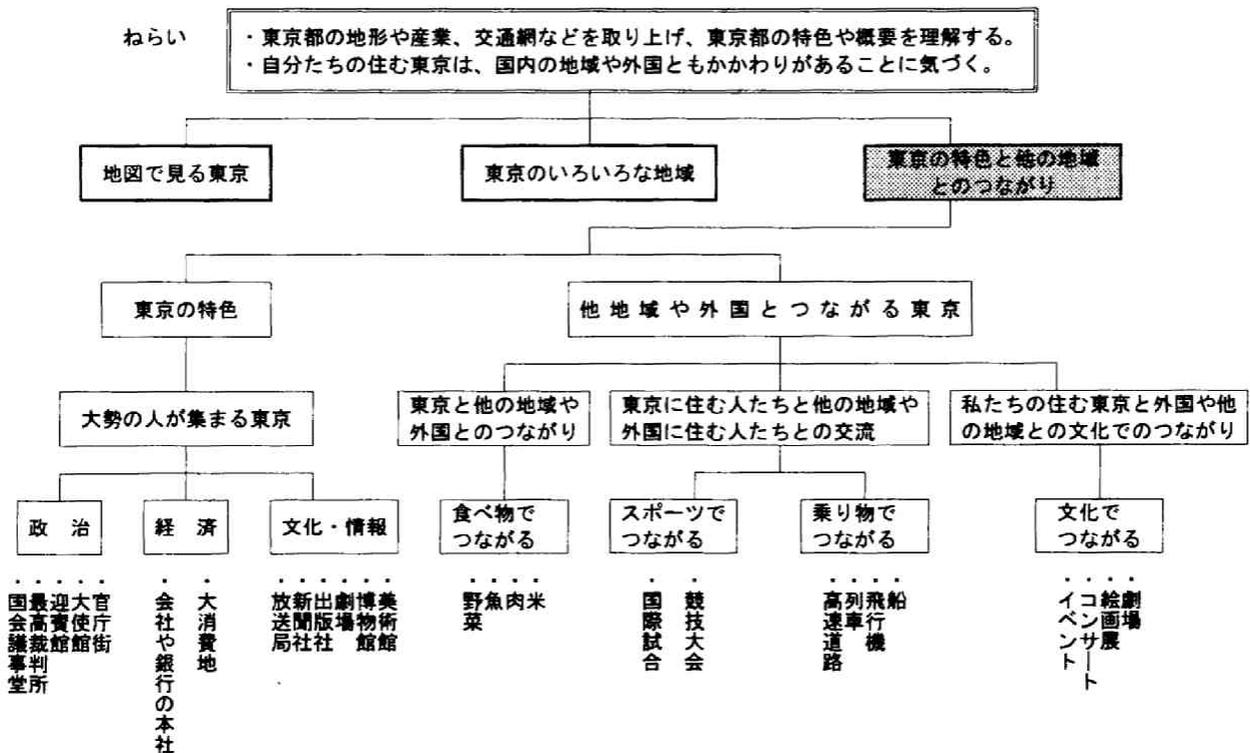
そこで、本分科会では「児童が教材を身近にひきよせる活動」にはどのようなものがあるか明らかにしてみた。

教材を身近にひきよせる活動

身近にひきよせる活動	どのようにとらえているか	具 体 例
体験を通して確かめる活動	実際に体験できる直接体験だけでなく疑似体験など具体物を通して、児童が驚きや意外性などを実感できる活動	見学 実験 視聴覚資料 直接 疑似体験 シミュレーション パソコン
生活経験や既習事項を生かす活動	今までに経験したことと関連づけたり既に学習したことをもとに想像したり見通しがもてる活動	既習事項の想起 学習計画 情報交換
思いや願いがかなう活動	自分の発想や考えが生き、自分らしい方法で学習を進めることができる活動	課題設定 資料選択 複線化 表現活動
人とのかかわりがもてる活動	さまざまな人とのかかわりの中で自他のよさを発見したり、人の考え方や生き方に共感したりできる活動	取材 手紙の交換 話を聞く グループ活動 情報交換

Ⅲ 授業実践

1. 小単元名 「東京の特色と他の地域とのつながり」
2. 教材構造図



3. 指導計画と授業の実際

時	主な学習活動と内容	資料	教材を身近にひきよせる活動	学び合いを通したA児の姿	学び合いを通したB児の姿
1 気 づ	○池袋駅の朝の通勤の様子や昼夜の人口から分かったことを話し合い、東京にはたくさんの人が集まって来ていることに気づく。	・池袋駅の通勤の様子 のビデオ ・池袋駅の写真 ・地下鉄の路線図 ・千代田区の昼と夜の人口 ・板橋区の人口 ・千代田区の地図	○池袋駅の朝の通勤の様子を見て、気がついたことを話し合う。 体験を通して確かめる活動 生活経験や既習事項を生かす活動	気がついたことを話し合う あっ、東武東上線だ。よく知っているよ 人がどンドン流れているね	和光市に住んでいたことがあるけど急行の方が普通よりずっと混んでいたよ。
			○千代田区の昼夜の人口のグラフからたくさんの人は何をしに来ているか予想し、話し合う。 生活経験や既習事項を生かす活動 人とのかかわりがもてる活動	グラフを見て、予想を話し合う 会社や学校、買い物に行くんじゃないかな。	会社や学校、遊び、買い物、出張などに行くんじゃないかな。
2 く	○東京は人や食べ物だけでなく、スポーツや文化、交通などでも他の地域とつながっていることに気づき、学習問題を立てる。	・東京卸売市場の地図、写真	○東京卸売市場の写真を見て、どんなものがどこから集まってきているか話し合う。 生活経験や既習事項を生かす活動	写真を見て話し合う すごい段ボールだね。 近くの県から運ばれてきているんじゃないかな。	いろいろなところから段ボールに入れられて、運ばれてきているんじゃないかな。
			○千代田区の地図で見てグループで予想を確かめ合い、分かったことや考えたことを話し合う。 人とのかかわりがもてる活動	グループで調べ、話し合う やっぱり学校に行く人や働きに行く人がたくさんいるから千代田区は昼の人口が多いんだね。	会社や学校だけでなく、新聞社やテレビ局も集まっているんだね。
3 見 通 す	○東京と他の地域とのつながりについて課題別グループで予想し、学習計画を立てる。 ・スポーツや文化 ・交通 ・人 ・食べ物	・池袋駅、東京芸術劇場、東京卸売市場、国立競技場の写真	○課題別グループごとに、課題について予想を話し合う。 思いや願いがかなう活動	予想を話し合う 周りの県から学校や働きに来ているんだと思う。	食べ物はいろいろな県から来ていると思う。
			○予想を確かめる方法について、課題別グループで話し合う。 生活経験や既習事項を生かす活動 人とのかかわりがもてる活動	予想を確かめる方法を話し合う 友達の家の人出身県などインタビューしてみよう。	スーパーへ行って写真に撮ってこよう。

東京と他の地域のつながりを調べよう。

究	<p>○課題別グループで資料集めをする。 (課外学習)</p>	<p>○課題別グループで資料を集める。 ・図書館に行って本を借りる ・家から資料をもって来る。 ・お店へ行って友達と一緒に食べ物の経路を調べる。 ・チラシを集めたり、催し物を調べる。 ・家の人や先生に聞く。</p> <p><u>体験を通して確かめる活動</u> <u>思いや願いがかなう活動</u> <u>人とのかかわりがもてる活動</u></p>	<p><u>グループで資料集めをする</u></p> <p>○○君のお母さんも長野県の出身なんだね。でもやっぱり東京が多いね。</p> <p>ジャガイモは北海道産なんだね。写真に撮っておこう。</p>
め	<p>○課題別グループごとに集めた資料をもとに調べ、どんな作品を作るか話し合い ・まとめた作品づくりをする。</p>	<p>・自分たちで集めた資料 ・副読本など</p> <p>○課題別ごとに作品の内容を話し合い、分担を決める。 <u>思いや願いがかなう活動</u> <u>人とのかかわりがもてる活動</u></p> <p>○課題別グループで作品作りをする。 <u>思いや願いがかなう活動</u> <u>人とのかかわりがもてる活動</u></p> <p>○調べてみて分かったことから考えたことをグループで話し合う。 <u>人とのかかわりがもてる活動</u></p>	<p><u>作品の内容を話し合う</u></p> <p>調べたことを新聞にまとめてみたいな。 インタビューしたことをグラフにまとめてみたいな。</p> <p>産地には千葉、埼玉など近い県もあるけど、北海道やフィリピンなど遠い県や外国もあるんだね。</p> <p>近くの県から来る人の中で会社に来る人が70%もいるなんてびっくりだね。 出身県は東京が多いけれどほかの県の人もあるね。</p>
ま	<p>○「東京の特色と他の地域のつながり」をテーマにした、 ●□小博物館を開設し、東京と他の地域とのつながりについて自分の考えを深める。</p>	<p>・自分たちで作ったまとめの作品</p> <p>○課題別グループを二つに分けて、お互いに作品の発表の練習をし合う。 <u>人とのかかわりがもてる活動</u></p> <p>○作品を発表したり、友達の発表を聞いたりして、東京と他の地域とのつながりについて自分の考えと友達の考えを比べ、自分の考えを深めていく。 <u>思いや願いがかなう活動</u> <u>人とのかかわりがもてる活動</u></p>	<p><u>発表の練習をしよう</u></p> <p>大きな声で分かりやすく発表したほうがいいよ。</p> <p>登場人物を分担して発表しようね。</p> <p><u>新 聞</u> <u>絵 本</u></p> <p><u>ポスターセッション</u></p> <p>自分の調べた人とのつながりでは、近いところの県から来ている人が多かったけど、北海道から食べ物が来たり、外国に勉強に行ったり、外国の人が来て試合をしたりするなど、遠いところもつながっていることに驚いた。こんなにいろいろな地域とつながっているなんて知らなかった</p> <p>東京はいろいろな食べ物、スポーツ、文化、交通、人などでいろいろな地域とつながっていると分かって驚いた。いろいろなグループをまわってよく分かった。</p>



4. 考察

① 体験を通して確かめる活動

課題を追究していく段階では、児童の主体的な活動が多く見られた。自分たちでスーパーの見学計画を立て取材を行ったり、家の人の出身県の聞き取り調査を行ったりした。また、前単元の学習でつながりをもった港区や大田区の先生にファックスで他県から通勤している職員の人数調査を行う姿も見られた。さらに、児童が路線図や時刻表・道路地図など自分たちが調べるために必要な資料を持ち寄る姿も見られた。

② 生活経験や既成事項を生かした活動

前単元の学習で、東京の他校の子どもたちと手紙で情報交換をした。その際に自分たちで写真に撮り、資料とするよさを知った。今回は、スーパーに見学に行くときに「写真を撮ろう。」ということを見学が話し合っただけで決め、撮ってきた写真を作品づくりの中で生かす姿が見られた。また、導入の授業で扱ったグラフが印象的だったのか、グラフを中心とするまとめをしたグループもあった。

③ 思いや願いがかなう活動

自分たちで課題を設定し、それぞれが集めてきた資料の中から課題解決のための資料を選択し、活用する姿が見られた。また、課題に応じた自分なりの方法で意欲的に調べたり、まとめたり、発表したりする姿がみられた。(例—新聞、双六、本など)

④ 人とのかかわりがもてる活動

「●□小博物館」を開設し、発表会を行ったことにより、発表者だけでなく、聞き手も主体的に活動し、自分の考えと友達の考えを比較することができた。

従来、調べ学習については、主に教師が集めた資料で満足し、児童自身が主体的に資料を集める姿はあまり見られなかった。しかし、今回の授業実践では多くの児童が自分たちで取材活動を行ったり、資料を集めたりする意欲的な姿が見られた。これは児童が活動の場を広げることが教師が認め、教材を身近にひきよせる活動が児童の中に浸透してきた結果であると言える。

このように、授業実践を積み重ねる中で、児童が教材を身近にひきよせるいろいろな活動を身に付け、課題をより主体的に追究していくことができた。

IV 研究の成果と今後の課題

1. 研究の成果

- 児童の発表や考えを大切にすることで、児童が教材を身近にひきよせる活動の場が広がった。
- 教材を身近にひきよせる学習活動がさかんになり、児童は自分の考えを深めていくことができるようになってきた。

2. 今後の課題

教材を身近にひきよせるのは児童である。教師の思い込みで活動を取り入れるのではなく、児童の側に立った学習活動の工夫が必要である。そのために、児童理解に努め、児童の発想や考えを認めながら学習活動を工夫していきたい。

産業学習の各単元の学習内容を生かして自分なりの考えをもつ学習活動の工夫

I 研究主題設定の理由

今日、児童に必要とされている「生きる力」を支える要素として、「自分なりの考えをもつ」ことが重要ではないかと、本分科会では考えた。

しかし、「自分なりの考えをもつ」には「考える糸口」が必要となる。その糸口になるものとして本分科会では、各単元の学習内容に焦点を当てることにした。これに焦点を当てることの利点として、次の2点が考えられるからである。

1. 一つの産業での学習内容が、次の産業の追究の視点となり、まとめの視点ともなる。そして、こうした視点をもった追究やまとめが、児童に、抵抗感なく「自分なりの考えをもつ」ことを可能にする。
2. 常に、学習内容を念頭において学習を進めることが、学習を主体的なものにし、学び方の習得を可能にする。

そして、この学習内容を児童が生かせるようになるには、学習過程の様々な場面で児童の活動を検討することが有効ではないかと考え、本研究主題を設定した。

II 研究のねらい

児童が自分なりの考えをもつようになるための教材を精選する視点を明らかにするとともに、児童の主体的な学習を促し、学び合えるようになるにはどのような学習活動が有効かを明らかにする。

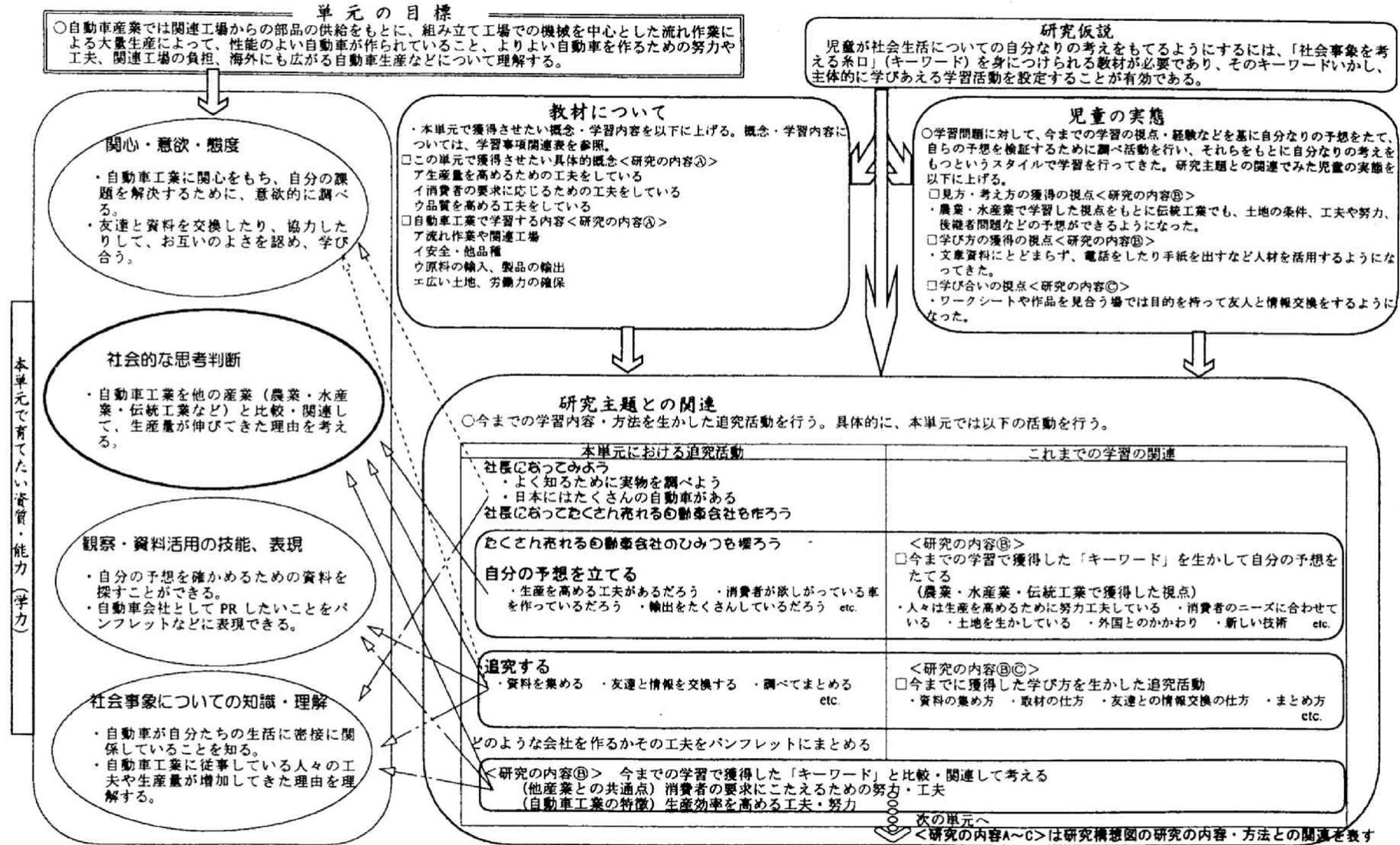
III 研究の仮説

児童が社会生活についての自分なりの考えをもつようになるには、「社会事象を考える糸口（以下キーワードと呼ぶ）」を身に付けられる教材が必要であり、そのキーワードを生かし、主体的に学び合える学習活動を設定することが有効である。

IV 研究の内容と方法

研究の内容	具 体 的 内 容	内容の具体化 (研究の方法)
A教材の 選択	共通学習内容と各産業の学習事項との関連を検討し、より多くのキーワードを児童が獲得できる教材を選択する。	学習事項関連表の作成 教材構造図の作成
B学習活動 の工夫	それまでの学習で獲得したキーワードをもとに、それぞれの社会事象をみつめられるようにする（学習方法を習得するために必要な活動の検討	学習問題の設定及び、 設定までの活動の工夫 キーワードを利用した 追究活動
C教師の 支援	それまでの学習で獲得したキーワードを想起したり活用したりできるような助言や学習環境の在り方	前単元までのキーワー ドの掲示 情報交換タイムの確保 情報コーナーの設置

VI 実践例 単元名『社長になってたくさん売れる自動車会社を作ろう』



学習過程 (全12時間)

時間	問題に気づく		学習問題をつくる		予想計画をたてる		追究する		問題をまとめる・発展させる	
	1	h	1	h	1	h (本時)	4	h	5	h
ねらい	◎自動車会社をつくるために、自動車に興味をもち、会社づくりに必要なことを考え、車のつくりを調べることができる。		◎オリエンテーションをして、気付いたことをもとに、学習問題をつくることができる。		◎学習問題に対して、自分なりの予想をたて、追究の観点を明確にすることができる。		◎資料活用や友達との情報交換をしながら、計画にそって予想を検証することができる。		◎自動車会社について調べたことをまとめ、自分の会社のパンフレットを作ることができる。 ◎自動車工業と他の産業を比較し、自動車産業について自分なりの考えをもつことができる。	
学習	①自動車のテレビCMを見て、自動車に興味をもつ。 ②本単元の学習目標を知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">社長になって自動車会社をつくらう！</div>		①会社づくりのオリエンテーションをして、気付いたことをメモしたり、発表したりする。 【謎のオリエンテーション】 ●道路を走る車を観察する。 ・たくさん車が走っているな。 ・うちの車と同じ車が走っていた。 ・大勢の人たちが車を利用しているんだな。 ●日本にある車の台数を知る。 ・6900万台(地球を7周半) ②気付いたことや疑問を発表する。 ・車はたくさん走っている。 ・車はよく売れている。 ・どうしてこんなにたくさんの車が売られているのか。 ・何種類くらいの車があるのか。		①学習問題に対して自分なりの予想をワークシートに書く。 ・みんなが欲しがらデザインを研究しているから。 ・大量につくって安く売っているから。 ・安く売る工夫をしているから。 ②予想とその理由を発表しあい、追加や修正を加える。 ③予想を確かめるために、どんな資料で、何を調べればよいかを考え、ワークシートに書く。 ・自動車の生産に必要な機械 ・自動車の生産の方法 ・みんなが欲しがら車とはどんな車か ・どのような売り方をしているか ・環境を守るための工夫 など		①調べたことを発表し、情報コーナーにある資料メニューに情報カードをはる。 【情報タイム1】 ②資料メニューから必要な情報を選び、自分の予想を検証し、ワークシートに書く。 ・教科書 ・資料集 ・教師の準備した資料 ・自分で収集した資料 ③友達の新聞を見てまわり、新たな情報を集める。 【情報タイム2】 ④友達の調べたことを見て、得た情報を自分の追究活動に取り入れる。		①自動車会社の工夫について調べたことを発表する。 ・関連工場のシステム ・ユーザーのニーズに応じた生産 ・環境問題に取り組む様子 ・製品の研究、技術開発 等 ②発表を聞いてわかったことをまとめる。 ③班づくり、調べたことをもとにしながら、「自動車会社パンフレット」をつくる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">自分たちの考えた自動車会社のパンフレットをつくり、みんなに紹介しよう。</div> ④各班でパンフレットづくりの計画をたてる。 ⑤計画にしたがい、パンフレットをつくる。 ⑥パンフレットの発表会を開き、それぞれの作品を相互評価する。 ⑦自動車工業と他の産業を比較して自動車産業についての自分の考えをワークシートに書き込む。	
テーマとの関連	◆=見方・考え方 ◇=学び合う活動の場				◆既習のキーワードを生かし、予想の検証計画をたてる。 ◇友達の意見・考えを参考にしながら、自分の考えを見直す。		◇友達の発表を聞き、活用する。 ◇情報コーナーを活用する。 ◇友達のワークシートを参考にしながら、自分のワークシートを完成させる。		◆それぞれの考えを出しながら、パンフレットづくりをする。 ◇話し合いや追究活動を通して、自動車産業についての自分の考えや感想をワークシートに書く。	

VII 児童の変容の分析

○児童が自分なりの考えをもつために、キーワードは重要な役割を果たしている。そのキーワードを児童がどのように獲得し、またどのように活用したかを分析した。1.では他の単元との関連も含め、一つの単元の中で児童がキーワードを中心に、どのように変容していったかをみた。2.では一人の児童が各単元を通して獲得（活用）したキーワードの変遷を分析した。

1. 本時にいたるまでの児童のキーワード獲得の変容

学習過程	児童の変容 (K児)	☆学習活動 ☆支援
水産業	追 究 ・図書館の本を調べた。 ・教科書・資料集で調べた。 ・図書室の本で調べた。 ・友達と情報を交換した。 ・電話で取材した。 ・直接、人に聞いた。	☆農業単元の追究方法を生かして調べ活動を行った。
	ま と め <キーワード> 消費者の好み 環境を守る 人手不足 輸出・輸入 200海里	☆学習のまとめをキーワード化して、次単元に活用できるようにした。
伝統工業	予 想 <キーワード> 特別な原料 土地の条件がいい 人手不足 輸出・輸入	★前単元までの学習を利用できるように、キーワードを教室に常掲した。
	追 究 ・図書館の本で調べた。「ヒヨセ、条件」 ・教科書・資料集で調べた。「人手」 ・図書室の本で調べた。「ヒヨセ、条件」 ・詳しい人に直接聞いた。「作り方」 友達と情報交換した。「色の付け方」「手作りのよさ」	☆前単元までの追究方法を生かして調べ活動を行った。 ★友達との情報交換の場を設定した。
自動車工業	ま と め <自分の考え、児童の作文より> 備前焼でも農業と同じように、条件がいいところでさかん。備前焼では、ヒヨセがなくなった時のために土の研究をしている。それは、農業の品種改良にしていると思います。農業や漁業には、人手不足の問題があったけど、備前焼にはそういう心配はいらないので、なくなる可能性が少ないと思います。主に、工場で作る作品と、主に人の手で作る作品では値段はけっこう違うので、主に人の手で作るのは、価値がいいのだと思います。手作りのよさを生かしているの、工業化は難しくそうです。工場では主に作るの、人の手で作る温かさや優しさがでないと思う。農業では、機械化が進む一方だから、どんどん仕事が楽になる。でも備前焼は、千百年の長い伝統を守るために、主に人の手で作るのが価値がいいのだと思う。備前焼では土の不足がある。農業では土地の不足がある。漁業では、200海里が決まり、とれる場所が少ない。どれも何か一つは問題がある。三つとも工夫や努力がたくさんある。伝統工業は、長い間ずっと続いたので、備前焼はこれからもずっと大切にされて、長く長く続くんだと思う。消費者の願いは、漁業と備前焼で同じ。・・・(略)	☆追究、発表の後に自分の考えをまとめた
	予 想 <キーワード> 新しい作品 消費者の好み ヒヨセ 条件 人手 手作りのよさ	☆発表後に本単元の学習内容を消化した
自動車工業	予 想 <キーワード> 安全 消費者の好み せん伝 環境問題 人手 輸出・輸入	★前単元までの学習のキーワードを教室に常掲した

→ 前の学習方法を生かした活動
 ▷ 前に学習した視点を生かした考え方 ▢ 農業単元の視点を生かした考え方

2. 各単元を通して、児童が獲得したキーワードの変遷

※○=自分で獲得 ◇=友達との情報交換によって獲得（A児）

単元	学習内容	産業に従事している人々の工夫と努力					国民生活		立地条件	
		生産量や生産効率を高める工夫や努力	品質を高める工夫や努力	環境保全や資源の有効利用のための努力	消費者の要求に応えるための工夫や努力	経営改善のための努力	問題を解決するための努力	日常生活とのかかわり	他地域とのかかわり	地形・気象などの自然条件
稲作	予想まとめ	○	○						○	
畑作	予想まとめ		○						○	○
水産業（養殖）	予想まとめ				○			○	○	
伝統工芸（備前焼）	予想まとめ		○	○	○			○	○	○
近代工業（自動車）	予想まとめ	○		○	○			○		○

3. 考察

農業単元では、まだ十分にキーワードを活用することができなかつたので、農業の特色などを的確に表現することが難しかった。しかしその後、全単元までのキーワードを活用した学習を続けたことにより、産業間の関連や現在学習している産業の特色などを考えて表現することができるようになってきた。例えば、A児は農業の機械化と備前焼の手作りを比較し、備前焼の手作りのよさを発見した。そして、手作りのよさが備前焼の特徴なので、機械化は難しいと考えた。これは、備前焼を考えるときの視点をそれまでの学習の中から獲得している例である。

また、児童が獲得したキーワードの変遷をみると、この児童は農業単元で獲得した後継ぎ問題というキーワードを水産業、工業の単元でも活用している。このことから、キーワードは、じぶんの考えをもつため視点になり、重要な要素となっている。

Ⅷ 研究の成果と今後の課題

1. 研究の成果

- 各単元に含まれる学習事項の関連を基に教材を選択し、キーワードが活用できる追究活動を設定した。この結果、児童は自分なりの考えをもつようになった。
- 獲得した学び方を生かした追究活動を工夫することで、児童は電話で調べたり、手紙を出したり、インタビューをしたりと、いろいろな調べ方ができるようになり、意欲的に追究活動を行えるようになってきた。
- 児童が大切だと思う情報を友だちに提供したり、必要な情報を求めたりするために情報カードを用いた。また、相互にワークシートなどを見合う場を設定し、児童相互の情報交換を重視した。さらに、全単元までに学習したキーワードの一覧表を常掲して学習環境を整えた。これらの支援により、自分なりの考えを広めたり、深めたりすることができた。

2. 今後の課題

- 学習事項関連表は、教材構造図や児童の変容の分析を基にさらに検討の必要がある。
- 児童が学習の中でキーワードをどのような要因や場で獲得したり、利用したりしていたのかを分析し、今後の学習活動をさらに充実させていく。

多様な学び合いの中で、一人一人が問い続ける学習過程の工夫

I 研究主題設定の理由

子どもたちの生きる力を育てていく上で、一人一人が「学習のめあてをもち、主体的、継続的に問題解決に取り組む」ことが大切である。そのためには、日常の学習の中で、・事象と出会ったときに自分なりの「問い」をもつこと ・「問い」に対する今の「考え」に満足することなく、別の考え方にふれながら、新たな「問い」や「考え」をもととする「問い続ける」学習を積み上げることが重要である。また、子どもたちは本来、友達とのかかわりを深めながら新しい情報を知ったり、自分から情報を発信したりして学習し生活している。多くの子どもたちはそのことに喜びを感じている。そこで、①「友達の情報や考え（表現）をもっと知り、自分の情報や考えを伝えたい。」という子どもの思いを大切に、学習過程の中に位置づけた。 ②一人一人が問いをもって学習に取り組み、学び合う中で、さらに新たな問いを見つけ、学習を続けられるようにしたい。と考え、上記研究主題を設定した。

(研究構造図中、主題は上記にあるため省略)

II 研究構造図

研究のねらい

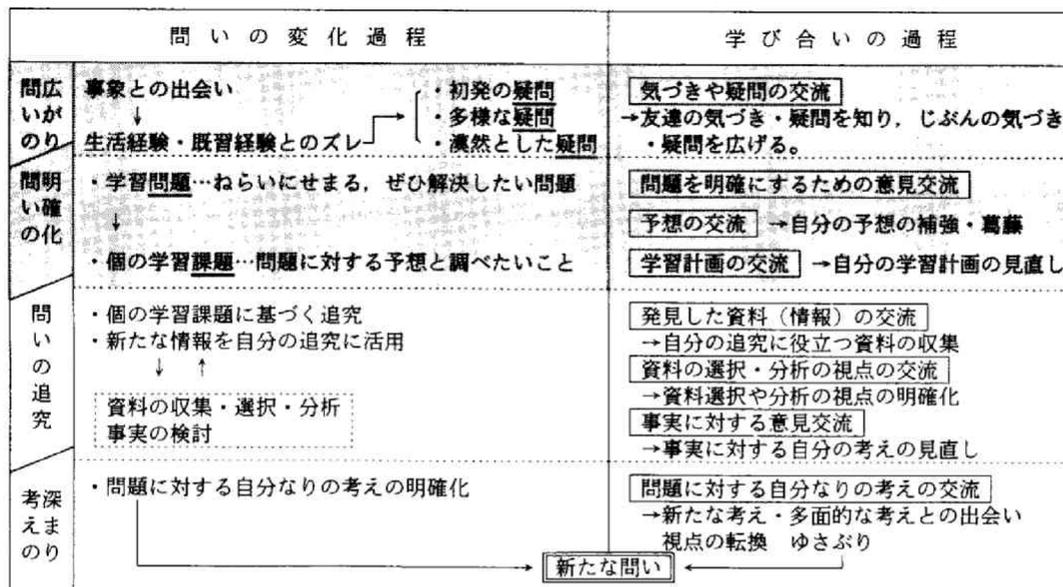
子ども一人一人が社会的な事象と向き合い、問い続けるようにするには、どんな学習過程を構成し、どんな学び合いの場を設定すればよいか、また、どんな教材を選定すればよいかを明らかにする。

研究の仮設

- ①子ども一人一人の問いの変化に着目した学習過程をくむとともに、自分の問いや考えを見直せるように多様な学び合いの場を設定すれば、問い続けるようになるだろう。
- ②(特に単元の導入段階において) その子らしい問いがもてる教材を選定すれば、こだわりをもって追究するようになるだろう。

研究の内容

1. 学び合いの中で問い続ける学習過程



は重点にしたところ

重点化の理由

「問いを広げ、明確化する」段階で、一人一人が学習問題に方向づけられた明確な課題をもつことができれば学習過程全体にわたっての追究が可能になる。

2. 問いを広げ明確化するための教材選択の視点

- ①子どもが自分の体験をもとに考えられる教材
- ②その時代を典型的にあらわす教材
- ③子どもがイメージをいだきやすいエピソードを含んだ教材
- ④(人物との)対話が可能な教材
- ⑤諸感覚を使って追体験できる教材
- ⑥様々な立場からとらえられる教材

育つ子ども像

自分のこだわりを大切にしながら問題に取り組むとともに、学び合いを通して自分の考えを見直し、問い続ける子ども

Ⅲ 実践事例

1 「聖武天皇と奈良の大仏」

(1) 単元のねらい

- ①大仏造営の目的や様子を調べ、大陸文化の影響や農民たちの働きから、天皇を中心とした国ができたことに気付く。
- ②年表、文章資料や想像図・写真などの資料を活用して、奈良に都がおかれた頃の時代の特色を聖武天皇と奈良の大仏を中心にまとめることができる。

(2) 学習過程 (7時間扱い)

	時数	ねらい	主な発問・指示< は、学び合いを促す発問・指示> (学び合い)	資料
問 い の 広 が り	1	実物大の大仏の手のひらを見ることで大仏に関心をもたせ、疑問に思ったことを調べる。	1. 東大寺大仏の写真を見て、知っていることを発表しよう。 2. 実物大の大仏の手のひらを見たり実際に乗ったりして、感じたこと、疑問に思ったことを発表しよう。<学び合いA> 3. 感想や疑問からでてきた、大仏づくりの細かいレベルのことについて調べ、大仏の「紹介パンフレット」を作り紹介し合おう。<学び合いB>	○大仏の写真 ○実物大の大仏の手のひら ○大仏についての資料
問 い の 明 確 化	1	学習問題を作り、仮説を立て調べる計画をたてる。	1. 大仏づくりはたいへんだったんですね。学習問題をつくりましょう。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">聖武天皇は何のためにこんなに大きな大仏をつくったのだろう。</div> 2. 学習問題に対して、予想を立て、話し合おう。<学び合いC> 3. 予想に対して、何を調べれば良いのか考えよう。	
問 い の 追 究	3	学習問題を解決する。	1. 自分の仮説が本当に正しいかどうか調べよう。 2. 同じ仮説のグループ同士集まって、情報交換しよう。また、わからないことは聞いてみよう。<学び合いD> 3. 学習問題に対する自分の考えをまとめよう。	○各種資料 ○学習問題一覧表
考 え の 深 ま り	2	自分の考えをまとめ発表する。また、友達の考えを聞くことで、大仏建立に関して、いろいろな立場から考える。	1. 学習問題に対する自分の考えを発表し合おう。<学び合いE> 2. 大仏建立にはいろいろな人がかかわっていたことがわかりましたね。では、大仏が完成したときみんなはどんな考えだったのでしょうか。それぞれの立場を選んで、次時に話し合おう。 3. 「大仏開眼会」にみんなで参加しよう。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">大仏が完成したとき、みんなはどんな考えだったのか話し合おう。</div> 4. 大仏建立にかかわった人々の、それぞれの立場を選んで、自分の考えを書き、話し合おう。<学び合いF> 5. 友達の考えから、再度「大仏建立」についての自分の考えをまとめよう。	○「大仏開眼会」の絵 ○「大仏開眼会」で使われた筆・繻等の写真

(3) 観察対象児の変容 ○…行動 ★…問い □…調べたこと・考えたこと

T児 (発想がユニークで事象に対して見方・考え方もよい)	Y児 (自分の考えに慎重で発言することも控えてある)
○実物大の大仏の手のひらの大きさにとっても興味を示した。 #1 「大仏の耳は福耳なのだろうか。」 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">学び合いAB 大仏の大きさや大仏づくりのたいへんさをとらえることによって、問いが変わってきた。</div>	○実物大の大仏の手のひらに乗るが、あまり興味を示さなかった。
#2 「大仏を造るにはたいへんな年月と費用がかかった。な	○予想を立てた

んでこんな大きな大仏を造ったのだろうか。」

○予想を立てた

#3「日本の本土技術を中国人等に見せるため」

学び合いC 他の児童が考えなかった予想を立て、
気づきのよさが光った。

□「中国ではこの当時、既に大仏づくりが行われていて、技術をもっていた。国公麻鷹がその技術を日本の大仏づくりに役立てたので、中国の技術のほうが進んでいて教えてもらった。予想とは逆だった。」

○「大仏開眼会」の話し合いでは、渡来人の立場に立つ。

□「設計図を何枚も引いたり、その模型を造ったり、そういう苦労などもあったから完成したときはうれしかった。」

学び合いF 渡来人の立場でしか大仏づくりは見えて
いなかったのに、農民の立場の意見を多く
聞くことで、農民の考えに共感し、考
えが深まってきている。

○話し合いの途中で、農民の意見を聞いて農民の立場で意見を言いたいと発表。

#4「農民の心を聞いて、大仏は豊かにするものなのに、それを造るまでがものすごくたいへんで、農民の生活は楽になるどころかどんどんつらくなって、大仏のせいでもっとかわいそうだなと思った。」

学び合いF いろいろな立場から、一つの事象を見
ることができ、さらに考えが深まった。

○話し合いを終えて

#5「僧は何もしていないのに、大仏開眼会にでずらい。もし行基さんが生きていれば、農民もでられたかもしれない。」

#1「仏教の力をいっぱい使えば、自分がえらいと証明されるから。大仏は、仏教の神様みたいなものだから、大きく造ってそれをみんなに知らせるため。」

学び合いC 今まであまり興味・関心がなかったが、
予想の話し合いで、いろいろな説が出て
くると共に、自分の学習問題がはっきり
したことで調べる意欲がわいてきた。

○予想から「聖武天皇の力を見せるために、天皇がしたいこと」を調べようと学習課題をたて追究し始めた。

□「奈良時代の中ごろは、各地で災害や反乱が起きていた。それをしずめるために全国に国分寺・国分尼寺を建てた。国分寺だけでも全国に70個も建てられ、そして、東大寺を建てた。」

学び合いD 同じグループ同士で、情報を交換する
ことで、仮説を立証するために自信を得
た。

#2「人民を安らかにしてあげるため、大仏は全宇宙の中心なので、それを造ればとてもえらくなるから。大仏を造ったことで、大仏の親になってわしはえらいということを示すため。」

学び合いE いつもは控えめだが、仮説に自信がも
てたことで自分から挙手して発言。

#3「これでわたしも一番えらい者になった。それにこれだけ大きければ、争いも起こらず、人民も安らかになる。これで安心だ。わたしは全宇宙の中心の大仏を造ったから、大仏の親になったんだ。」

学び合いF 農民の考え方一つとっても、プラス面
面とマイナス面の見方があることを知
り、さらに学習の意欲を高めている。

○話し合いを終えて

#4「農民には、大仏を造って大変だったという考えと、自分たちが支えていたから造れたという考えがあったので、自分でもう一度調べてみたい。」

(4) 考察

実物大の大仏の手のひらに乗ることによって、多くの子どもたちは、「大きい」というイメージをもつことができた。しかし、この事象との出会いだけでは、問いを明確につかむことは不十分だったので、大仏についての細かいレベル（他の部分の大きさ・費用・製作年月・材料など）のことを調べた。そして調べたことを発表し合うことで、大仏の大きさ・製作過程での苦労などをさらに実感し、学習問題を明確化することができた。

学習問題に対する予想は、聖徳太子が仏教を敬うことによって国づくりを行ったという既成経験が生かされての予想であった。はじめは自信が全くもてずにいたが、予想の話し合いで、既成経験を生かしての予想をほめられたことと、他の児童の同じような予想を聞くことで自信をもつことができた。学び合いがY児の問いを明確にさせ、さらに意欲をもって追究活動に入っていくことができた。また、T児の学習問題に対する予想は他の児童の問いを広げるためにはとても刺激になった。T児は最初は渡来人の立場でしたか見ていなかったのか、学び合いを通して農民の立場、僧の立場など、見る立場が広がってきた。一つの見方しかできなかったのが、様々な見方ができるようになってきた。また、Y児★4のように、新たな問いをもつことができることも問い続ける姿といえらると思う。

2. 「戦争から新しい出発へ」

- (1) 単元のねらい ① 国の方針・政策・国民生活が、戦争を契機にして短期間で大きく変化した意味について考える。
- ② 戦時中の国民生活を切り口にして、15年間にわたる戦争は国の内外に大きな影響を与え、国民は厳しい生活を強いられたが、戦後、平和で民主的な国づくりが人々の努力で急速に進められたことを理解する。

(2) 学習過程 <10時間扱い>

学習過程	時数	ねらい	主な発問・指示 < は、学び合いを促す発問・指示 >	資料
問 い の 広 が り	2	学童疎開中の食料不足を切り口にして、戦時中の国民生活の様子や、戦争の概要などについて様々な問いをもつ。	<ol style="list-style-type: none"> この写真はいつごろ撮られたのでしょうか。 桃二小が疎開した人数を表で調べましょう。 当時、桃二小5年生だった星田さんという方が、疎開先で書いた手紙を読んで、わかったことを発表しましょう。 「食べ物が無い」ことを中心にして、わかったことを図にまとめるとどうなるかな。全員でやってみよう。 図を写した後に、その他にわかったことを書きましょう。<学び合いA> 	<ul style="list-style-type: none"> 疎開前の集合写真 戦争の頃から現在までの拡大略年表 表 星田さんの手紙
問 い の 明 確 化	2	戦時中と現在の食べ物の比較を通して、学習問題をつくり、解決の見通しをもつ。	<ol style="list-style-type: none"> これは、食べ物がなかったときのお弁当です。感想を発表しましょう。 星田さんのお話を聞きましょう。 学習問題を出し合ひましょう。 学習問題を解決するために、どんなことが関係あるのか、年表を参考にして関係図に書き込もう。 学習問題をグループでまとめるとしたら、どんな内容をいれればよいでしょう。関係図を持ち寄って相談しましょう。また、どんなふうにもとめるかも相談しましょう。 <学び合いB> 相談した結果を報告し合おう。 他のグループの報告も参考にして、もう一度相談して、作品に入れる内容とまとめ方を決めよう。また、分担も決めよう。 	<ul style="list-style-type: none"> 当時のお弁当 星田さんの話 戦争の頃から現在までの略年表 各種資料 各自の関係図 他のグループの報告 各種資料
問 い の 追 究	5	学習問題を解決する。	<ol style="list-style-type: none"> 見出しを工夫しながら作品を完成しよう。グループの中で内容を相談したり、自分の分担ができたなら交換して読み合ったりして、間違いがなくわかりやすい作品をつくらう。他のグループの作品も参考にしていよ。 	<ul style="list-style-type: none"> 各種資料 他のグループの作品
考 え 深 の ま り	1	自分の考えをまとめ表現する。	<ol style="list-style-type: none"> 勉強してわかったことや考えたことを入れながら、星田さんにお礼の手紙を書こう。 手紙を交換し合って、友だちの考えを知ろう。 	<ul style="list-style-type: none"> グループの作品 友だちの手紙

(3) 観察対象児の変容

分科会の研究の重点である「問いの広がり」と「問いの明確化」の2つの段階に絞って変容を見ることにする。

○…行動 ★…問い □…調べたこと・考えたこと

学習過程	S 児	<歴史に対する知識が豊富で、事実と事実を関連づけてとらえることもできる>
問 い の 広 が り	○ 疎開前の写真や疎開した人数を表した表を熱心に見つめる。 ○ 星田さんの手紙を細かい部分まで読み込み、関係図に整理する。 □ 「食べ物がないということは、当時、食べ物はとても貴重だったのだろう。」 □ 「母乳が出なくて死んでしまった赤ちゃんもいた。」 ★1 「戦争しているから、食べ物の輸入ができなかったのでは。」〔関連図より〕	<学び合いA> 自分で調べたことや 友達の発言を「食べ物 しとても貴重だった」 と、まとめることがで きた。
問 い の 明 確 化	○ 提示された弁当をじっと観察する。 □ 「とても細い。」「においては今のと同じ。」 ○ 星田さんの話を聞いた後、自分の学習問題を関係図に記入する。 ★2 「戦争中には、なぜ食べ物がなかったのか。」〔関連図より〕 ○ 食べ物がある現在までにどんなことがあったのか、年表を参考にして多くの内容を書き込む。 □ ・第二次世界大戦が終わる ・農地改革 ・朝鮮戦争で景気がよくなる ・日本国憲法公布 ・サンフランシスコ講話会議 ・国際連合加入 ・東京オリンピック ・日中平和友好条約 ○ グループの活動では話し合いを主導し、自分の学習問題にも手を加える。 ★3 「戦争中には、なぜ食べ物がなかったのか。なぜ今はあるのか。」 ○ グループの学習問題がなかなか決まらず、S児は戦争中のことだけでは足りない主張する。 ★4 グループの学習問題…『食べものがない時～食べ物がある今までのなぞ』〔グループの学習計画表より〕 ○ グループで、入れる内容と分担を決める。 ★5 ○日ソ共同宣言（S児担当） ○日中平和友好条約（S児担当） 〔グループの学習計画表より〕 ・第二次世界大戦 ・農地改革 ・朝鮮戦争 ・日本国憲法 ・サンフランシスコ講和会議 ・国際連合加入 ・東京オリンピック	<学び合いB> グループでの話し合いの中で、当 時から現在までの変化にも着目し、 学習問題に付け加えた。

(4) 考察

S児は、問いの広がり段階で、食べ物がなかったことを中心にした関係図を書いたときに、「戦争しているから、食べ物の輸入ができなかったのでは。」という問いをもった。S児の他に国際関係に着目した問いは少なく、S児を観察対象児とした理由でもあった。

S児のその後の活動を見ると、国際関係、中でも貿易を考えのベースの一つにしていることがわかる。例えば、現在までの変化の要因として関係図に書いた国際連合への加入は、たくさん国と付き合うことを可能にし、輸出入ができるようになったとまとめられるし、朝鮮戦争は、お金が増え輸出入がしやすくなったとまとめられている。また、グループの中での分担も、ソ連、中国という相手国が明確な形のものを選んでいく。

以上のように、S児の事例からわかることは、単元の導入部分での問いが、問いを明確化するときに、考えのベースになるときがあるということである。単元の始めに、どんな事実と、どのように当面する機会を設定するか、その重要性を再認識した。

IV 研究の成果と課題

1 研究の成果

(1) 学び合いの中で問い続ける学習過程

- 一人一人の子どもの問いの変化を教師が追うことによって、子どもが気付きや意見などの交流をきっかけにして、その子らしく問いを変化させていくことをつかむことができた。それにより、その子に「どんな資料を提示すればいいのか。」「だれとの学び合いの場を設定すればいいのか。」という個に応じた支援の方向性が見えてきた。
- 自分の問いや考えを交換する学習活動（学び合い）を取り入れることによって、子ども一人一人が自分の考えや問いを直し、問いに深まりが見られるようになった。子どもは、自分の考えをまとめていく中で、「なぜなんだろう。どうしてなんだろう。」と揺れながら、粘り強く追究するようになった。
- 追究の中で友達から新たな情報の提供があると、子どもの考えがゆさぶられ、追究意欲が一層高まることが分かった。また、情報を提供した子どもも、満足感を覚え、さらに意欲的な学習ができるようになることも分かった。このように、子どもが問い続けていくためには、「問いの追究」の段階でも情報交換（学び合い）が重要であることが分かった。
- 学び合いの前提として、自分なりの問いや考えをはっきりと意識するための活動が必要であること、特に、吹き出しや関係図・パンフレットなど、子どもが自分なりの考えを作品化していく事が大切であることが分かった。
- 学習過程に学び合う活動を位置づけた学習を積み上げたことによって、日常の他の学習でも、活発な情報交換活動がみられるようになり、互いにかかわり合いながら学習を進める学級の仲間意識が高まってきた。

(2) 教材選定の視点

- 6つの視点にもとづいて教材の選定をしたことにより、子どもが多様な疑問をもち、意欲的に学習に取り組むようになった。

2 研究の課題

- 「問いの追究」段階や「考えの深まり」段階での学び合いの活動の場をどのように工夫するかについての研究をさらに深めていきたい。
- どのような教材を組み合わせれば、疑問から学習問題へ問いを変化させることができるのか、6つの教材選定の視点をふまえながら、さらに研究を深めていきたい。